

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

# 博士論文審査報告書

## 論 文 題 目

原題名 Original Title	戦前期日本の対タイ文化事業 —発想の起点と文化事業の特性との関連性—
英訳 In Japanese	Japan's Cultural Projects for Thailand before World War II

## 申 請 者

氏 名 Name	姓 Last Name	Middle Name	名 First Name
	佐藤		照雄
学籍番号 Student ID	4006S308-8		

2016年 1月

## 1. 本論文の主旨

日本が東南アジア諸国に対して実施した文化事業のなかで、タイ(1939年以前の国名はシヤム)に対する文化事業は最も早期に行われたものである。本論文は、19世紀末から1930年代半ばにかけて、日本・タイ両国間の親交を深めるために実施された日本の様々な対タイ文化事業の発想・企画および実施過程の実態を一次史料によって明らかにし、それら事業の発想された場所、即ち起点と文化事業の性格との関連性を分析しようとするものである。

戦前の対タイ文化事業の主要なアクターとして、稲垣満次郎と矢田部保吉の2名を挙げることができる。稲垣、矢田部の両者は、駐タイ公使としてのタイ在任期間が長い。両者の在任時期は、稲垣はチュラーロンコーン王の絶対王政時代、また、矢田部は主に立憲革命政府時代と時代を異にするが、それぞれ時の政権から信頼され、文化事業面でも一定の功績を残した点は共通している。

本論文は、稲垣満次郎が関与した「仏骨奉迎事業」や「タイ皇后派遣学生の日本留学」および矢田部保吉が発想した「招致留学生奨学資金制度」を対象に、「現地」対「中央」の視点から、これらの文化事業がいかなる状況において発想され、どのような過程を経て成立したか、さらに、文化事業としていかなる特性を有していたかを解明することを目的としている。また、「招致留学生奨学資金制度」の分析・検討から、「国際文化事業」にとって重要なファクターを抽出することを試みている。

本論文は、外務省外交史料館所蔵の多量の外務省記録を精査し、国立公文書館やタイ国立公文書館の一次史料および国立国会図書館、東京都立図書館、名古屋市立図書館、早稲田大学図書館や他大学の図書館の関連諸資料を活用して分析・記述を行っている。

上述の文化事業はいずれも、タイ(=現地)で発想されたものであり、「タイ皇后派遣学生の日本留学」と「招致留学生奨学資金制度」は、タイの文化向上を企図した文化協力・教育協力という特性を有していた。一方、1930年代半ば以降に実施されたタイにおける日本語教育事業やその他の文化事業は、日本政府(=中央)主導で発想され、日本語の普及または日本文化の宣揚を主たる目的としていた。本研究が対象とした現地発想の前者の文化事業は、中央主導の後者のそれらとは対照的であり、異質なものであった。本論文は、文化事業の発想の起点と文化事業の特性との関連性に着目することによって、対外文化事業の性格の分類を可能にした。

続いて、対タイ文化事業を基点として、国際的視座から文化事業を比較検討し、その成功のためのファクター抽出を試みている。その結果、国際文化事業成功にとって重要なファクターとして、計画段階での「事業成功の強い意思」、「事業計画案の具体性・現実性」、また、実施段階での「プロセスの透明性」、「有能な運営責任者の存在」、「理念の継承」および「見返りを求めない人助けの精神」等を抽出した。企業経営等の事業とは異なり、国際文化事業においては、とりわけ「見返りを求めない人助けの精神」が重要なファクターであると指摘している。また、ここに抽出したファクターは、国際文化事業のあり方を考究する際の主要な指標となり得ることを指摘している。

最後に本論文は次のように述べている。稲垣満次郎も矢田部保吉も、タイに一種の魅力を感じて、タイの発展を望み、タイのためになることを念頭において対タイ文化事業を発想し実施した。これらは、両国間の友好関係の基礎の一つとなってい

る。その意味で、彼らの文化事業は、「ソフト・パワー」論に通ずるものがある、と。

## 2. 本論文の構成と概要

序章 本論文における文化事業の時代環境、文化事業や国際文化事業の定義、現地対中央の概念等について述べ、これらを踏まえて、研究目的、課題と意義、先行研究、研究方法、論文の構成を述べている。

### 第1章 国際文化事業と対タイ文化事業

1930年代前半の欧米諸国の国際文化事業を概観し、日本の国際文化事業の実態を説明し、次いで、各国のタイに対する文化事業と日本の対タイ文化事業を比較している。

### 第2章 稲垣満次郎とタイ

稲垣満次郎のタイ関係の活動について述べている。1897年3月にタイ駐割初代公使に任命され、「日暹修好通商航海条約」の締結・調印などを通じて、日タイ関係の親密化を図った過程を述べる。また、タイ皇太子の日タイ交流に対する影響などを考察する。

### 第3章 仏骨奉迎事業

日タイ文化事業の嚆矢と考えられる、1900年の「仏骨奉迎事業」について、仏骨が日本に分与され、奉安されるまでの過程を検討し、稲垣公使がなぜ、どのように関与したかを述べる。

### 第4章 タイ皇后派遣学生の日本留学

タイ皇后が1903年に派遣したタイ人留学生男女各4名が、どのような留学生生活を送ったのか、また、日本側の対応の背景にいかなる要因があったのかを考察する。

### 第5章 矢田部保吉と伊藤次郎左衛門

特命全権公使矢田部保吉は、立憲革命後のタイの文化水準向上のため、タイ人青年を日本に留学させることを、1935年に発想し、仏蹟参拝旅行の途次タイに立寄った伊藤次郎左衛門に協力を要請した。伊藤は賛同し、資金提供を約したが、その背景にどのような要因が作用していたか検討する。

### 第6章 招致留学生奨学資金制度

矢田部公使が発想し、伊藤次郎左衛門が具現化した「招致留学生奨学資金制度」の成立過程を検討する。また、招致された留学生が日本でどのような生活を送ったのかを明らかにする。

結論 上述した対タイ文化事業の今日的な意義および第1章から第6章までの分析・検討結果の総括。

## 3. 口述試験での質疑応答

本論文審査委員会は、申請者から提出された学位請求論文を査読し、2015年11月8

日に 2 時間余にわたり口述試験を実施した。主たる質疑応答および追加修正に関するコメントは以下の通りである。

1, 「現地」対「中央」がキーワードだが、導入部でこの概念についてももう少し詳しく説明を加えるべきこと、また、他の研究で類似の概念が用いられているなら、引用すべきこと。現地と中央とを対比するのであるから、中央側の現地とは異なる動きもより詳しく書き込むこと。

2, この論文でいう「文化事業」とは何か、他の文化事業研究を参照しながら、その定義を導入部に書くこと。

3, タイと日本との関係だけではなく、同時代における他のアジアからの留学生受入に関する最近の文化交流研究を参照すべきこと。また、文化交流なのだから日本からタイへの一方的なものではなく、タイから日本への交流の流れもできるだけ視野に入れること。

4, 短い章は、他に統合し、かつ論文の構造を再整理すべきこと。引用・記述についても学術論文の形式に厳格に従うべきこと。文章の繰り返しを整理すべきこと。文献目録は、主要文献だけでなく、参照した全ての文献を挙げること。

審査員の協議の結果、上記の諸点に留意して修正追加することを求めることに決定した。その後、申請者は上記1, 2, 3のコメントに関し、序章において追加説明を加え、かつ、4 に関しても論文構造を再整理し、引用・記述方法・文献目録等に関しても適切に追加修正を加えた。審査委員会は、修正意見に対する申請者からの対応表とともに論文を再度検討し、修正が適切になされていることを確認した。

#### 4. 評価と審査結果

本論文は、本格的な既存研究が存在しないタイに対する戦前期日本の文化事業という分野を、丹念な一次史料調査によって詳細に明らかにしたものであり、また、対外文化事業の 2 分類およびその成功の要因分析という枠組みは、今後対象地域を拡大して比較することによって、より精緻化が待たれるとは言え、一応の説得力を有している。このように、本論文には学術上の独自性と新しさを備えており、学術上の貢献は少なくない。

口述試験の内容を踏まえ、論文に関して慎重かつ総合的に審査を行なった結果、博士学位請求論文としての水準を十分に満たしているものと判断し、四名の審査員は全員一致で本論文を合格と判定した。

申請者名： 佐藤照雄

## 博士論文審査委員会

主査 Chief Examiner:

氏名 Name: 村嶋英治 (印)(Signature)

所属 Affiliation: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

職位 Title: 教授

学位 Degree: 取得大学 Conferred by:

専門分野 Specialty: 東南アジア地域研究

副査 Head Deputy Examiner:

氏名 Name: 後藤乾一 (印)(Signature)

所属 Affiliation: 早稲田大学

職位 Title: 名誉教授

学位 Degree: 法学博士 取得大学 Conferred by: 慶應義塾大学

専門分野 Specialty: 日本アジア関係史

副査 Deputy Examiner:

氏名 Name: 早瀬晋三 (印)(Signature)

所属 Affiliation: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

職位 Title: 教授

学位 Degree: Ph.D. in History 取得大学 Conferred by: Murdoch 大学

専門分野 Specialty: 東南アジア史

副査 Deputy Examiner:

氏名 Name: 加納 寛 (印)(Signature)

所属 Affiliation: 愛知大学国際コミュニケーション学部

職位 Title: 教授

学位 Degree: 博士(歴史学) 取得大学 Conferred by: 名古屋大学

専門分野 Specialty: 東南アジア地域研究

2016年 1月 25日